


グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	玄関ホールに掲示。フロアには手作りボードを掲げ、毎日目にふれるようにしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の理念の読み上げと内容の理解、実践に取り組んでいます。
	毎朝の申し送り時、全員で理念を読み上げている。カンファレンスや勉強会でも話し合いをしています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	入居時、ケアプランの説明時、運営推進会議などで、度々説明させてもらっています。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣を散歩することで、顔見知りとなり、気軽に声をかけあっています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の運動会には事前より話し合いに参加し、当日競技に参加しています。
	地区運動会への参加。地元の方を招いての運営推進会議などで、交流に努めています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いつでも気軽に相談できる窓口を設けています、又、いつでも見学者、ボランティアの受け入れをしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議で議題に取り上げています。カンファレンス、勉強会で随時、話し合いの場を設けています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	記録に残し、参加されなかった家族にも閲覧できるようフロア入り口においています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いつでも相談できる体制をとっています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会で学んだり、いつも目に触れるよう玄関などに掲示しています。実際に利用している入居者もいます。		新人スタッフにはその都度、勉強の機会を設けています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、毎月のカンファレンスで話し合いをもち、知識を高め、防止に努めています。		これからも話題にすることで、小さな事も見落とさない様に努めていきたい。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前より書面にて、また、契約から入居までの手続きを説明し、理解・納得を図っています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を取り入れ、ケアプランに反映しています。毎月、介護サービス相談員が来所され、自由にお話されています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には近況を報告したり、請求書発送の際には、手紙や写真を同封しています。</p>		<p>ご家族との連絡ノートを作り、記録に残しています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に市町村の相談窓口を掲載したり、玄関にも提示しています。家族の意見も記録に残し、運営に反映しています。</p>		<p>苦情報告書として、記録に残しています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス時、朝の申し送り時など、意見や提案を聞く機会を設けています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>調整に努めています。</p>		<p>必要に応じたスタッフの配置に、より一層努めていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には異動は行わないが、退職などによる新人スタッフの雇用の際は、早く馴染みの顔になるよう気配りしています。</p>		<p>働きやすい環境をつくり、離職者がでないように努めたい。また、新人スタッフへの研修を十分に行いたい。</p>

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>採用する際には、性別・年齢を理由に対象外にするのではなく、むしろ、幅広い年齢層・男女を採用しています。職員の思い、考えは随時取り入れ、相談しながら実行しています。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入社時の新人研修、人権教育、啓発活動に取り組んでいます。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階的に自己評価チェックリストの作成。定期的に面談を行い、職員の意識の向上を図る。外部での研修受講も勧めています。</p>		<p>近頃、シフトの都合上、研修の機会が少なくなっています。何とか機会を増やしたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣施設との交流で、情報交換し、サービスの向上を図っています。</p>		<p>もっと他の介護施設との交流を増やし、情報交換をしていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的な親睦会、日々の会話の中で悩み、相談などを聞き取り、話しあっています。</p>		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の能力に合わせた役割分担、責任をもたせることで、向上心を持って仕事に取り組めるようにしています。		個々にケアプランの担当をもたせたり、家族との連絡、お手紙など各自行っています。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでは、本人様の生活している場に訪問し、安心して話せる環境の中で面談しています		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にはいつでも施設見学をして頂き、困っている事、不安な事など、相談にのっています。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一度、何を求めているのか、何が必要かを判断し、GHの特性を説明する事で、本人のニーズに合うか、または他を考えるとしたら、どのような方向か、納得するまで話しあっています。		本人様のニーズに合った施設選びを家族と一緒にやる。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族共に、何度か訪問してもらったり、体験入居の形をとって、家族と相談しながら行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事前の聞き取りにより、本人の生活歴を知った上で、本人の能力、何を求めているのかを理解し、職員が学んだり、協力しあって共に支えあう関係を築いています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、私達職員一人ひとりが安心してもらえる顔になることで、共に生活し、家族にも安心してもらえる関係を築いています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い、家族の思いを共に受け入れ、いつまでも家族との関係が継続できるように支援しています。		敬老会など、行事、催事、などへの家族の参加の声かけを行っています。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にあたっての制限はなく、馴染みの場所へのドライブなど行っています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が仲立ちすることで、コミュニケーションがとれています。		利用者同士での楽しい語らいができています。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去することになっても継続的に関係を持ち続け、相談に応じていける事を説明しています。		入院などで退去された後、退院後の行き先などの相談にのり、共に落ち着く先を探しています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の聞き取りから本人の思い、希望など知りえたものを重視し、日々の生活の中から現在の思いも掘り出しています。		ケアプラン作成にあたってアセスメント、モニタリングを十分に活かし、カンファレンスなど、全スタッフが関わりをもって検討しています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、本人・家族より情報を提供していただき、全スタッフがいつまでも読むことができるように情報シートとして残し、把握に努めています。		新人研修では必読してもらうように指導しています。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活日誌、場面ごとの状況、ケアプランの目標、達成状況など、アセスメント・モニタリングに残し、全スタッフが情報を共有することで、把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、見直し時は、本人、家族の意向を聞き、また、主治医の専門的意見も参考にして作成しています。		必要であれば、その他の専門的立場の人の意見も取り入れています。Dr、Ns、Ot、ベテラン介護士など。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の変更時、入退院時の状況変化・ADLの変化などが生じた場合は、すぐに現状にあったプランを作成しています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌、健康日誌、経過記録、医療情報、申し送りノートなど、情報を全て記録、共有し、見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各部署との連携で柔軟な支援をしています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間スケジュールを決め、定期的に消防訓練を行っています。民生委員、ボランティアの方との連絡を取り合い、協力して頂いています。		敬老会では地域の方、民生委員の方の参加、ボランティアの方の参加など頂いています。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じていつでも支援できます。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要に応じて協働しています。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切に、今までのかかりつけ医とも継続して情報交換し、適切なアドバイスや支援を行い、納得のいく受診支援を行っています。		緊急時の搬送先、連絡先など、細かく聞き取り、記録に残しています。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医には常に相談できる環境作りがあり、診察、治療が受けられるように支援しています。		受診には家族・スタッフが同行し、皆で説明を聞き、納得のいくまで話しあっています。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師、同一施設内に所属する看護師にいつでも気軽に相談でき、アドバイスをもらっています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院を目指して医療機関をはじめ、家族と情報交換や相談に努めています。		入院時はスタッフが同行し、早期に情報を把握し、早期退院に向け、随時、情報を得、助言を行っています。相談窓口も活用しています。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医他、家族との話し合いを持ったり、運営推進会議で議題に取り上げています。		家族とは早い段階から話し合いをもち、終末を迎える不安を取り除くようにしています。専門スタッフにも話し合いに参加してもらいたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴い、当事業所においてはどこまででき、どこからできないかをよく説明し、検討・準備をしています。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分に情報交換を行い、適切な住み替え場所を探したり、移り変わった後も、気軽に相談できるように話しあっています。		家族だけで介護すると考えず、今までのケア関係者の情報をもとに、これからの支援に役立てています。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時、新人研修及びカンファレンスの場で学び、徹底させています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定に基づき、思いや希望を表し、納得して生活できる支援をしています。		本人の思いを察知することで、少しでも希望を表せるように支援していきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースに合わせ、その人らしい生活ができるように支援しています。		外出、散歩、ドライブなども含め、業務優先にならないよう努めています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望するよう支援しています。施設内に美容室を設けています。		馴染みの美容室へ家族と行かれたり、施設内の美容室で希望する頃、希望するヘアスタイルにしています。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者・スタッフが一緒に行っています。		配膳や後片付けなど、できる事を役割分担して行っています。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居時、嗜好を尋ね、本人や家族の希望を確認して支援しています。		好みに合わせてメニューの変更をしたり、季節に合う食材やメニューを心がけています。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人のできる限りの力を活かし、気持ちよく排泄できるように支援しています。		紙オムツ、下剤の服用に頼らないよう話しあい、実践しています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時はスタッフとの1対1の大切なコミュニケーションの場として、本人のペースにあった、ゆとりのある入浴体制をとっています。		夕方より夜間の入浴は、職員の人員配置上行っていません。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に添った支援、その日の本人のペースに合わせて安眠への支援を行っています。		不眠のため、専門医より、入眠剤・安定剤を服用している場合もあります。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担など、本人のできる事を見極め、職員が試行錯誤しながら行っています。		配膳・洗濯物畳み、雑巾縫い、編み物など、スタッフと一緒にいつまでも続けていけるように支援していく。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもつ大切さは理解しているが、管理は事務所が行っています。		お金は事務所管理としているが、本人が必要と思うときは事務所に取りに行き、買い物をしています。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調を考慮しながら、散歩、ドライブなど外出しています。		季節を感じられる場所への外出、馴染みのある場所への外出などを行っています。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スタッフだけではなく、家族にも協力してもらって、外出の機会を作っています。		外泊や家族旅行など出かけています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されればかけたり、先方よりかかってくれば本人が受話器を持って話しをしています。		家族了解のもと、希望に添えるようにしています。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来所してもらっています。		夜間の来所でなければ家族了解のもとで、いつでも誰でも来所してもらっています。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスで話し合い、拘束のない生活が送れるようにしています。		カンファレンスで必ず議題に取り上げ、話し合い、勉強して拘束のないケアを行っています。万一、身体に危険が及ぶ場合は家族の了解を得ています。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口はいつでも開錠するように努力しています。		玄関は1階にあるため、治安の関係上施錠し、出入りはモニターでチェックし、開錠しています。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員の行動・所在を把握できる位置にて見守りを行っていますが、あくまで監視とならないようにプライバシーを守っています。		夜間の定期的巡視、昼間は必ず1人はフロアにいます。排泄時もプライバシー重視に努めています。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活習慣上必要な物はなるべく側においています。薬は2階事務所管理としています。		状態により、危険となる物はさりげなく預かり、家族と相談して対応しています。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修・勉強会において、基礎知識を学び、毎日のミーティング・カンファレンスで話しあっています。		事故やひやりとする場面が生じた時には、すぐに報告書を作成し、再発防止策を練り、全スタッフが内容を把握する事で再発防止に努めています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、日頃から目に触れるところに設置しています。		緊急時マニュアル、応急処置マニュアルを作成し、いつでも目にすることができるようになっています。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行い、近隣への働きかけを行い、避難口への誘導を身につけています。		災害時マニュアルを作成、飲料水の確保などを行っています。運営推進会議では和が家の取り組みを説明し、理解してもらっています。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクマネジメントとして、研修の項目にもあげ、状況の変化には家族にも説明を行い、対応策を話し合っています。		経過記録を参照することで、日々の変化を見逃さず、日ごろから家族に話しています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、申し送りなどでの小さな気づきを大切にして早期対応を心がけています。		医療情報、経過記録、健康日誌、申し送りノートなどで記録を残し、スタッフが情報を共有することで早期発見、早期対応をしています。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書、受診記録を見ることで、薬の特性と利用者の症状との関連を理解し、把握しています。		薬のセットはスタッフの持ち回りでを行い、薬の必要性・重要性を学んでいます。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士、看護師、主治医との話し合いや冊子など、提供をもらったの勉強会などで、指導・指示を受け、実践しています。		下剤に頼るだけでなく予防のため、食生活の工夫、運動、マッサージなどで改善を心がけています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケア、口腔状態の確認を行っています。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の記録をとり、チェックしています。月初には体重測定を行っています。		主治医より、摂取量、栄養バランスの指示を受け、栄養士と相談しながら一人ひとりに応じた支援をしています。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルを作成しています。時季に応じた研修も行っています。		感染防止マニュアルの熟読、カンファレンス、勉強会での学び。インフルエンザ予防接種。手洗いうがいの徹底。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、衛生管理ノートを記入。月に一度の栄養士による点検・指導にて、衛生管理、食材管理を行っています。		調理前、後の検食用の取り置き。専用エプロン、三角巾の使用。手洗い、器具の消毒を徹底しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇の掲示板に行事予定などを掲げ、植木鉢を置いて、親しみやすく、心地よい玄関口飾りなどで工夫しています。		季節感のある鉢ち植えで玄関を潤いのあるものにしていく。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かく、ぬくもりのある、季節感のある場所作りをしています。		ボード、壁には手作りの優しさあふれる飾りつけなどを行っています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場でも、自分の居場所がもてる工夫をしています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族とも相談して、本人の居心地良い馴染みのある雰囲気になっています。		先月より仏壇をもってこられた方もいます。慣れ親しんだ調度品で在宅の延長線上にある環境作りをしています。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調・換気は細めに行っています。寝具・衣類の清潔にも配慮しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、バリアフリー、家具調度の配置にも気を配っています。		身体機能にあったベッドの使用。調度品の配置をしています。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印・名前を書いて貼る等、場所がわかる工夫をしています。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターやベンチがあり、日当たりも良く、いつでも出て楽しめます。		プランターお花を眺めたり、水遣り、洗濯物干しなど、活動や楽しみの場所となっています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

基本方針である、「元気で明るく楽しい和が家、いつも笑顔で和気あいあい、優しさあふれる安らぎホーム」を目指し、実践しています。この和が家が地域に密着し、方針が地域住民に浸透していくように努め、入居者様が、ご家族様がそれを実感でき、スタッフも共有できるように努力していきたい。